

2025年中高生薬剤師体験



薬剤科長より挨拶と薬剤師という職業についてのお話



病院薬剤師について、体験会での注意事項などを説明

8月の3日間に中高生を対象とした薬剤師体験会を開催しました。

近隣市町村から多数の応募があり、参加人数は32名となりました。

約2時間の予定でグループに分かれ、以下のようなプログラムで行いました。

- ・オリエンテーション
(薬剤師になるまで・病院薬剤師業務の概要説明)
- ・調剤体験 (内服薬・注射薬)
- ・医薬品情報 (DI) 体験
- ・軟こう調製体験
- ・抗がん剤調製体験
- ・質疑応答
(薬剤師について、進路相談など)
- ・アンケート・写真撮影など

内服薬調剤体験①

模擬処方箋を使用し、実際の薬品を調剤体験してもらいました。

ハンディ端末を使った内服薬の調剤体験



各自処方箋のバーコードを読み取り、薬品棚から必要な薬を探していきます。



調剤時に気を付けていることや、間違いやすいところなど、説明を聞きながら集めていきます。

内服薬調剤体験②

調剤が終わったら間違いがないか
お互いに確認します。

初めて目にする薬が多かったようですが、
見たことがある薬、
自分が処方されたことがある薬もあった
ようです。



内服薬調剤体験③



散薬調剤体験①



薬を秤量するところからはじめます。



少しずつ慎重に電子天秤に載せていきます

散薬調剤体験②



専用の機械で分包していきます。



散薬調剤体験③



へらで均一にしていきます。

散薬調剤体験④

分包後、同じ量になっているか目で確認します。



注射薬調剤体験①



注射薬もハンディ端末を使い調剤していきます。



各自違う疑似処方箋を使っています。



注射薬調剤体験② ハンディ端末を使い必要な薬品を探しながら集めていきます。



注射薬調剤体験③



アンプルピッカー(注射薬自動
払い出しシステム)の中がどう
なっているか、実際に見てもら
いました。

DI(医薬品情報)体験①

DIとはドラッグインフォメーションの略になります。
病院内外において医薬品の情報の収集・管理・提供をする重要な業務です。

今回は模擬症例に対する処方内容について、この処方には問題はないか？適性であるか？
を調べ、意見を出し合ってもらいました。



DI(医薬品情報)体験②



模擬医薬品添付文書を読んでもらい、気付いたこと、わかったことを発表してもらいました。

医薬品添付文書とはその薬品の使用上不可欠な情報を網羅している文書になります。

その薬品の効能効果や用法用量、副作用、禁忌などが書いてあります。

DI(医薬品情報)体験③



軟こう調剤体験①

2種類の異なる軟こうを軟こうへらを使用してよく混ぜ、軟こう壺に詰めていきます。



軟こう調製体験②

これがやってみたかった！という声が一番多かったのが軟こう調剤体験でした。
現在では専用の機械で混ぜることがほとんどですが、大量の軟こうを混合しなければいけない時や、薬品によってへらと軟こう板を使用して調製することもあります。



軟こう調製体験③

調製台に軟こう壺を打ち付けて空気を抜きながら、少しずつ軟こうを入れていくのが綺麗に詰めるコツです。



抗がん剤調製体験①



通常は安全キャビネット内で調整する抗がん剤ですが、その際に使用する器具を使ってバイアルからシリンジに薬剤を移したり、混注作業をしてもらいました。



抗がん剤調製体験②



抗がん剤調製体験③



ダブルバック製剤の開通作業にも挑戦してもらいました。



薬剤師志望の高校生や、まだ進路は決まっていなくても医療系に興味がある方、
なんだかおもしろそうだなと参加してくれた方など参加動機は様々でしたが、みなさんひとつひとつ真面目
に取り組んでくださり、こちら側も有意義な時間を過ごすことができました。
初めての試みで不安なこともありましたが、またこのような体験会を開催することができればと思います。